

# 洗馬地区

日付：令和5年7月24日（月）

場所：洗馬支所

会場：28名 オンライン：3名

出席者：市長 企画政策部長 建設事業部長 企画課長 都市計画課長 企画係長 計画係長 企画係1名 デジタル戦略課1名 計画係1名

## グループごとの発言

### ■ グループ①

- ・ 地区の強みとしては、自然が豊か、人間性が良い、それから違う地域から来た新しい方も非常にまとまりがよい常会が構築できているという地区もあるところ。
- ・ 反面、地区の課題については、特に私が住んでいる小曾部になると、かなり高齢化が進んでいて10年後の話をして、なかなかその10年後がどうなるか、正直存続できるかどうか、というような心配さえある現状。グループに岩垂と上組の方がいて一緒に議論をしたが、岩垂についてもやはり野菜農家の方が高齢になり、跡取りがいないという問題があった。
- ・ マスタープランについては、いきなりこういうことを聞かれても、市の全体的な考えとしては当然のことだと思うが、洗馬地区に当てはめてもなかなかピンとこないところが現状。
- ・ まちづくりの目標については、地元だけの努力ではなかなかできない部分もあるなど感じている。ぜひ市からもバックアップをお願いしたいと希望する。

### ■ グループ②

- ・ 地域の強みはレタスの産地ということで、その中でも灌水施設があって、常に安定した作付け、生産量を保つことができるところが、洗馬地区としての強みではないか。また、少し外れるが塩尻市にマスコットがあったと思う。ブドウの関係と、レタスの関係があったと思うが、そういうものを活用していただきたい。今は漆器とワインということでやっているが、その中にレタスも入れていただければ。
- ・ 遊休荒廃農地が特に太田地区から上組、宗賀の洗馬にかけての地区において増えている。私が住んでいる上組では25件ほど畑があるが、その中で生活のためにブドウや野菜を出荷しているのは5件だけで、農業公社に貸しているのが3件、他は草を刈っているだけという状況。畑にできない相当ひどい状況になっているので、そういうところを青地から白地に変えることができればいいのではないか。地区全体ではできないと思うが、太田地区がどのようにして白地にしたのか参考にしながら、市の方で対応していただければと思う。
- ・ 旧沓沢湖をどうにかすれば若い人たちも入ってくれて、住んでくれる可能性があるのではないか。洗馬地区では若い人たちを住ませたいという考えはあるが、住むにしても住宅を建てる土地がなく、その土地を確保できるような体制を一緒に考えていただければと思う。

### ■ グループ③

- ・ 自然が豊かであるとか、農地が非常に豊かである、そういった強みがあるが反面、農業の後継者問題とか、遊休農地が増えている弱みがある。
- ・ 空き家が増えている状況が見られていて、将来、その空き家の管理も含めて心配がある。
- ・ 人口が減少していることが課題で、高齢化が進むことも含めた課題になるが、家を建てる土地自体が元町の場合で言えばない。道路もうまく整備されていない。その辺があると思う。

### ■ グループ④

- ・ 皆さんが今まで発表されたこととかなり重複はするが、最近気象の変化が著しく、それはこの塩尻市についても言えることであると思う。それに対応した形でのいわゆる河川に伴う狭隘道路、これの改善は、要するにそこに住んでいる人たちの住みやすさを向上させることと思うので、この辺の対応は早急にしていただきたい。特に上小曾部、下小曾部、上組、岩垂地区は、他の地区に比べてその辺に問題があるかと思う。
- ・ 20数何年前に、芦ノ田に住宅団地が約70戸できた。そして現在農協の跡地に18戸増設工事をしている。70戸の住宅団地に当初から全部の区画に家が入ったが、それがたった20年ほどの1つの世代の交代が始まりかけた今、もう既に空き家も出ている。また、高齢者だけの世帯になっている。子供が出ていったまま帰ってこない。そういう状態の住宅が、結構出ている。ですから、住宅だけを作ってそれでいいかということ、決してそういうことではなく、長い目で見た場合単純に考えても少し問題があるんじゃないかと考えられる。

- ・塩尻市でも桔梗ヶ原地区に270戸が分譲されかなり入っているが、それも市内の比較的不便な他の地域から入ってくる、要するにその周辺地域の過疎化速度を速めているような気もしている。入ってきた方たちが、これからやはり20年後30年後40年後と、完全にその地域に定住して後継者ができるようなことを目指し対応していかないといけないと思う。何か計画やプランの無駄遣いみたいな形にならないように、ぜひその辺も考えたまちづくりをしていかなければならないと思う。

#### ■ グループ⑤

- ・地区の強みとして、青果物特に野菜のブランド力、これは日本の中でも洗馬の野菜は結構評価されていることは強みではないか。
- ・強みが一つに対して弱みが10から20くらい出てしまったが、弱みは、少子高齢化。高齢化が進み36%が65歳以上ということで、10年先ともすれば5年先もちょっと危ういような地域になってきてしまっているのではないか。
- ・商業施設が全くないというかほとんどなさすぎるから、子育て世代の人たちがこの地に来たがらない、残りたくない、という意見が強くなってしまふ感じが受けられる。  
地区の課題は、やはり人口減少の中でいかに人口を増やしていくか、増やさないまでも今の人数を維持できるかどうか、というのが課題かと思う。そういった中で、先ほども話したが、青果物が得意な地域としては通年できるようなものが考えられないか。どうしても生産者の人は半年仕事で収入があって半年収入がない状態で、半年間がどうしても不安で仕方ないということもある。これが少しでも収入があるような、通年青果物ができるかどうか課題ではないか。
- ・まちづくりの目標は、この洗馬地区が洗馬地区として独自にやっていけるそういったことができれば、この地に愛着を持って住み続けるのではないか。

#### ■ グループ⑥

- ・強みは、先ほどから出ている農業関係で野菜とか果物、これがしっかりしている。合わせて、灌漑用水の発達もしっかりしているところ。
- ・もう一つ、ボランティアの関係で、洗馬地区は支所と小学校と保育園が隣接していて、その間をふれあいセンター洗馬と、福祉施設のアイアイさんが挟んでいるということで、福祉のボランティア活動が結構盛んでまとまりがある。
- ・一点マイナスな部分もあるが、小曾部はハザードマップを見ると自然豊かだが、やはり危険が潜んでいるなと見てとれる。
- ・太田地区ではブドウ畑だとかワインこういった生産が盛んになるが、これを更にブランド化して宿泊も含めた経済活動に資することができないかという意見が出た。農業宿泊体験なんかそれが当たる。
- ・公共交通機関が脆弱ということで、のーとのエリア拡大を期待している。
- ・多様なエネルギーが眠っているということで、洗馬地区では太陽光、水力、複数のバイオマス、こういったものがかなり無活用であるのではないか。

### 個人の発言

#### □ 個人①

- ・私は、洗馬地区の地区誌の準備会をやっているため、それに絡めた話をしたい。洗馬地区の歴史認識のところ左側の3番目について、中山道から分かれた善光寺街道は洗馬地区のほんの一部であって、本洗馬を含めてここは主に琵琶橋からここを通過して、安曇の方に抜ける仁科街道あるいは、明治になると洗馬街道と言って塩尻駅や昭和電工へ通う人たちが通った道になる。それが基本的なこの集落の姿だと思う。ぜひそういう内容も入れていただきたいとどうしても言っておかなければならなかった。
- ・もう一つ、資料に書かれているように洗馬は非常に歴史がある。特に槻井泉神社はそこで創建されたと言われていたが、その割には地区誌がない。今それを作ろうという動きがあり、地域全体の動きになっている。やはり地域を活性化していくというのは、子どもあるいは若い人たちに新しく住んでもらうということももちろん大事だが、継続して住んでもらうということがどうしても大事だと思う。その子どもたちの時代から地域の自然とか歴史とか、そういうものに親しんでもらうために、地域を表現するものがないとなかなか伝えにくいということで、我々の世代で何とかしないとできないのではないかと考えている。長野県でも昨年地区誌ができたのは、篠ノ井の五明と栄村の2つだけだった。僕らの努力も必要だが、お金の絡むことになるので、補助をお願いできないか。しかるべき時期にしかるべき人がお願いに行くとするので、よろしくということを一言。

□ 個人②

- 
- ・ 1点目、洗馬の一番の課題は高齢化、人口減少。これを何とかするためには、子どもを産める若い人をどうやって増やすかという部分が大きなウエイトを占めている。小曾部だと遊休農地、荒廃農地がいっぱいあるが、そこに家を建てられない状況があって、農業委員会に申請していると2年近くかかってしまう。そこに住んでいる人が申請すると降りてくるが、例えば東京から、地区外から来る人が簡単に家を建てられるような、そういう仕組みを作らなければいけないのではないかと。農地法があったりして大変だということは分かるが、ここに手を入れない限り若い人が気持ちよく来て住んでもらうという訳にいかないだろうと感じる。
- 
- ・ 先ほど通年労働できるようにという話があったが、通年労働するためには、冬の間も働けるところを作らなければならない。若い人に魅力を感じてもらわなければいけないというところで、そういったものを作ることができる可能性がある場所は旧沓沢湖だと思っている。そこをどうやって活用していくか本気で手をつければ、総合計画の期間と同じくらいの年数がかかる内容になるかもしれない。ただ、あれだけの面積がまとまっていて、地図を見ると洗馬の真ん中、そんなところを上手に使う有効活用する方法を市と地元で一緒に考えて、その内容をぜひこの総合計画の中に落とし込んでいけたらなと思っている。
- 
- ・ 2点目は、洗馬の強みとして「小曾部川流域のうおいある自然環境や良好な田園景観」と資料にあり、地区の課題として「災害リスクを軽減するための自然環境の保全・再生が必要」となっている。
- 
- ・ この辺を見ていただくと分かると思うが、松くい虫が入ってきている。これは市にも早急に手を打つようにとお願いをしているが、なかなか具体的にスピードアップしていかないところが課題だと思っている。松本市の四賀や浅間のように真っ赤にしないために、山を守っていけるようにしていただきたい。強みがこのまま2, 3年すると、強みではなくなってしまう可能性がある。洗馬にとっては自然環境という中で一番大事なことであるので何を置いてもぜひやっていただきたい。
- 
-